

甲子園目指す29校

2021全国高校野球徳島大会

5



スマホは「おしり」

動画
あります

生光学園

【創部】1980年 【選手】83人

素振り練習でバッティングフォームを固める
 生光学園の選手

春季大会1回戦の池田戦、2回戦の鳴門戦に先発して試合をつくった2年生石腕のエース奥濱を中心に、守備からリズムをつくって得点につなげる。「3点以内に抑えて5点以上取って勝つ」という幸島監督のプランを遂行できるかどうかが鍵となる。

投手陣は右4枚の継投で試合を組み立てる。奥濱はテンポがよく、直球、変化球ともにストライクが取れる。春藤、入谷も同じタイプで変化球を織り交ぜて打たせて取る。佐々木は球威のある130キロ台の直球を主体に押し。守備陣を引っ張るのは遊撃手の吉田主将。1年生の台頭で内野のレギュラー争いは激しさを増している。

打線は1番の吉田主将、1年生で3番を任される安藝、春からレギュラーに定着した5番の中瀬、ヒットゾーンが広い6番の谷口の4人が打率

機動力絡め得点狙う



3割台をマーク。足の速い選手も4人おり、ヒットエンドランなど機動力を絡めて得点したい。

【真大会の成績】
 ▽秋季大会 1回戦 5-2 徳島科技 2回戦 8-1 阿南高専
 【過去5年の夏の戦績】
 16年11ベスト4、17年11ベスト4、18年11準優勝、19年112回戦、20年11ベスト4

準々決勝 4-8 鳴門渦潮